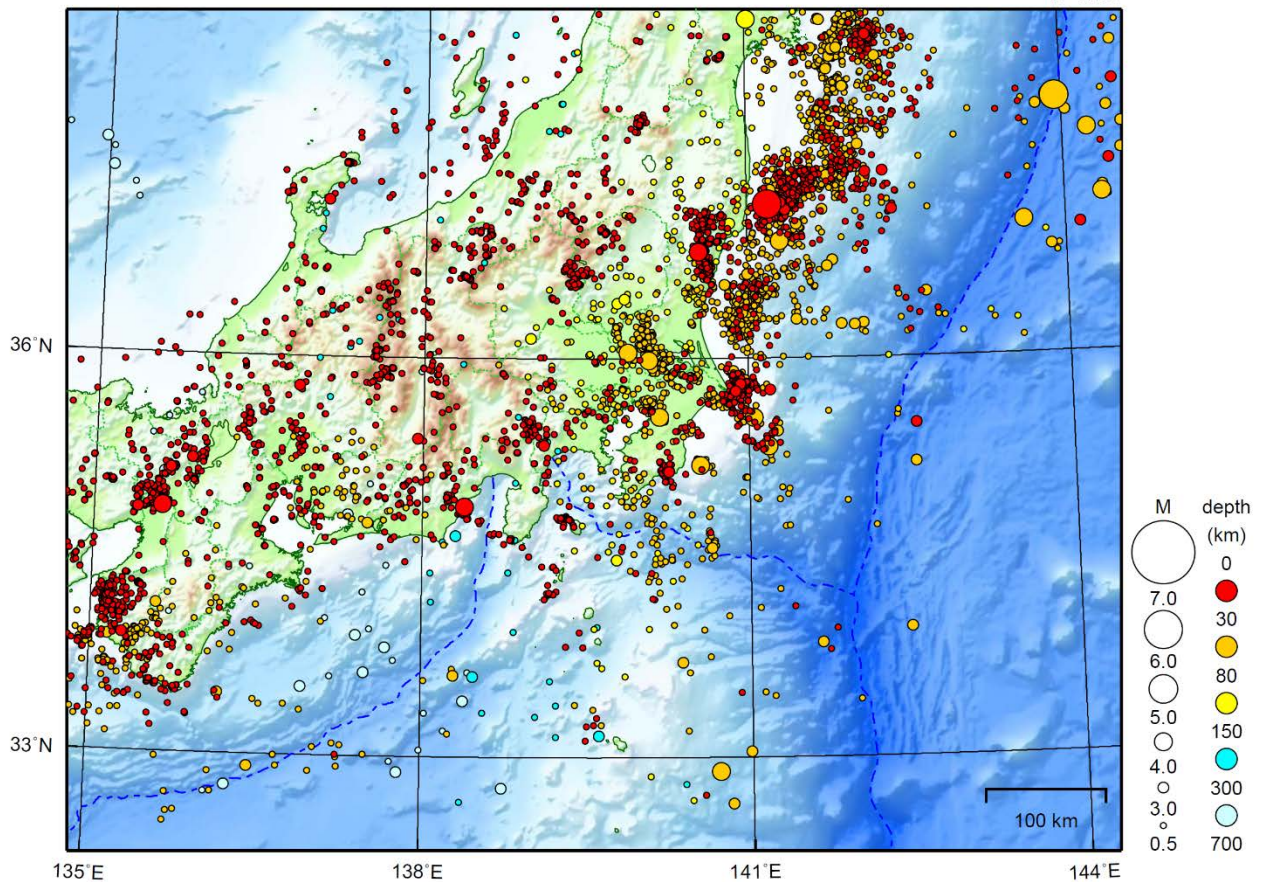


関東・中部地方

2018/08/01 00:00 ~ 2018/08/31 24:00

N=6232



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

特に目立った地震活動はなかった。

(上記領域外)

8月17日03時21分に硫黄島近海でM6.3の地震(震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。

8月17日03時23分に硫黄島近海でM6.6の地震(最大震度1)が発生した。

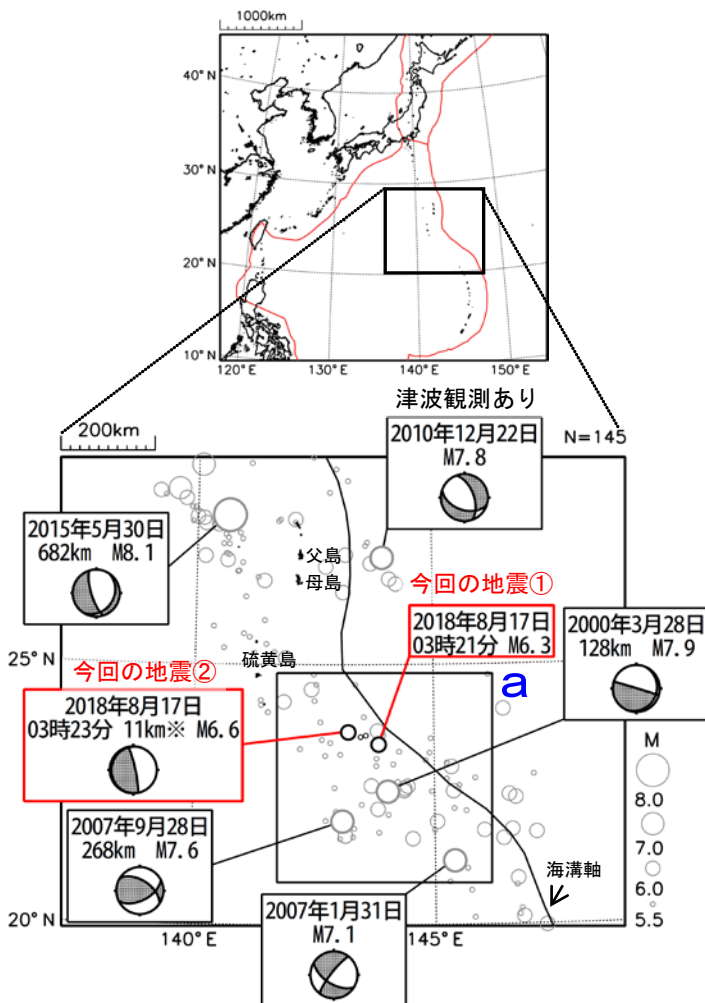
(上記期間外)

9月5日に茨城県沖でM5.5の地震(最大震度4)が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

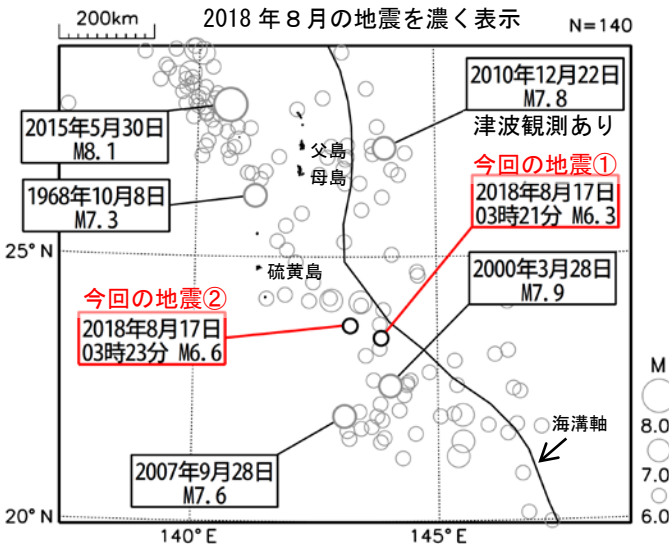
8月17日03時21分、03時23分 硫黄島近海の地震

震央分布図
(2000年1月1日～2018年8月31日、
深さ0～700km、 $M \geq 5.5$)
2018年8月の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解



※2018年8月17日03時23分の地震 ($M6.6$) の深さはCMT解による。

震央分布図
(1923年1月1日～2018年8月31日、
深さ0～700km、 $M \geq 6.0$)
2018年8月の地震を濃く表示 N=140



※本資料中のプレート境界の位置はBird (2003) *より引用。

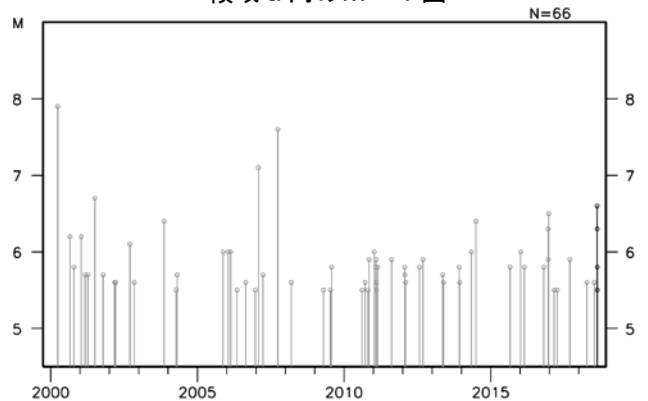
*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4 (3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

2018年8月17日03時21分に硫黄島近海で $M6.3$ の地震 (震度1以上を観測した地点なし、今回の地震①)、同日03時23分に硫黄島近海の深さ11km (CMT解による) で $M6.6$ の地震 (最大震度1、今回の地震②) が発生した。今回の地震②は発震機構 (CMT解) が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

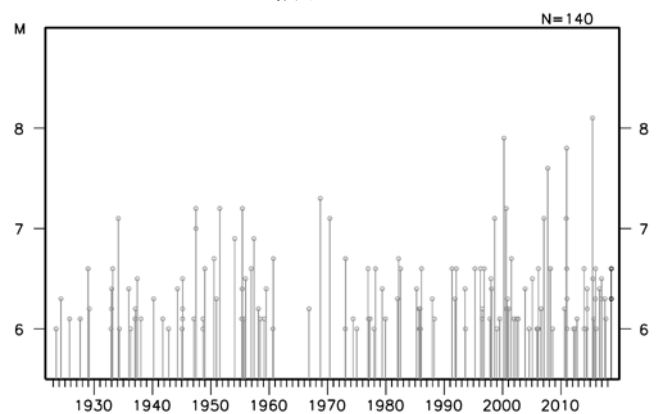
2000年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域a) では、2000年3月28日に $M7.9$ の地震 (最大震度3) が発生するなど、 $M7.0$ を超える地震が3回発生している。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、 $M7.0$ 以上の地震が時々発生している。2010年12月22日には父島近海で $M7.8$ の地震 (最大震度4) が発生し、八丈島八重根で0.5mの津波など、東北地方から沖縄地方にかけて津波を観測した。

領域a内のM-T図



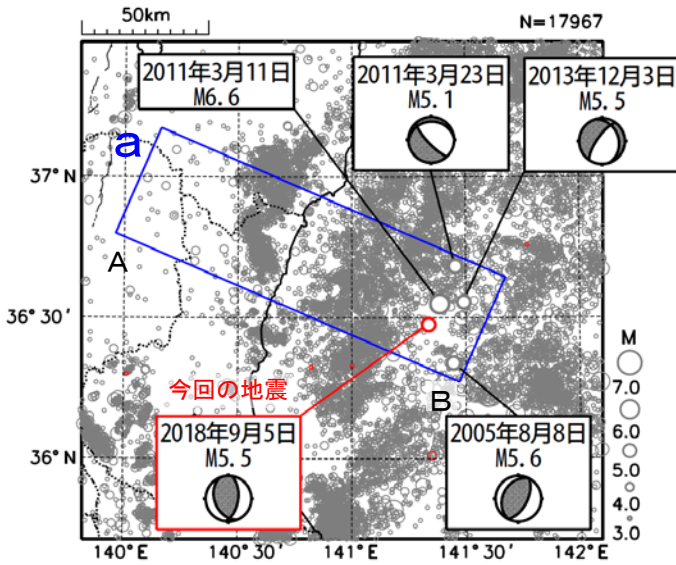
左図の領域内のM-T図



9月5日 茨城県沖の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2018年9月6日、
深さ0～140km、M \geq 3.0)
2018年9月の地震を赤く表示
図中の発震機構はCMT解

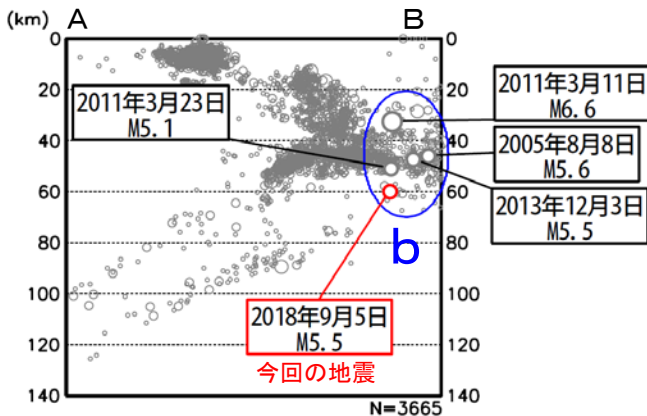


2018年9月5日05時11分に茨城県沖でM5.5の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構 (CMT解) が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレート内部で発生したと考えられる。

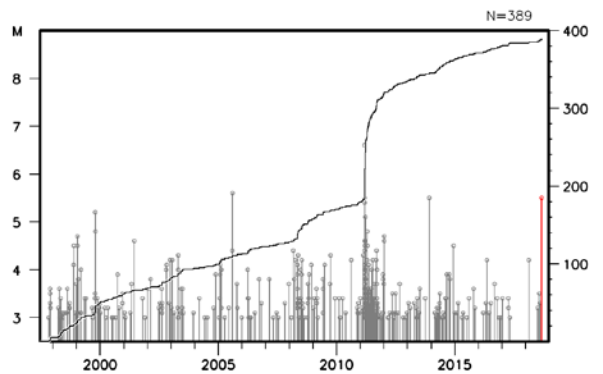
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源周辺 (領域b) では、M5.0以上の地震が時々発生している。また、2011年3月11日にM6.6の地震 (最大震度4) が発生するなど、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動が一時的に活発となった。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M7.0以上の地震が3回発生している。このうち1938年5月23日に発生したM7.0の地震では、福島県小名浜で83cm (全振幅) の津波が観測された (「日本被害地震総覧」による)。

領域a内の断面図 (A-B投影)

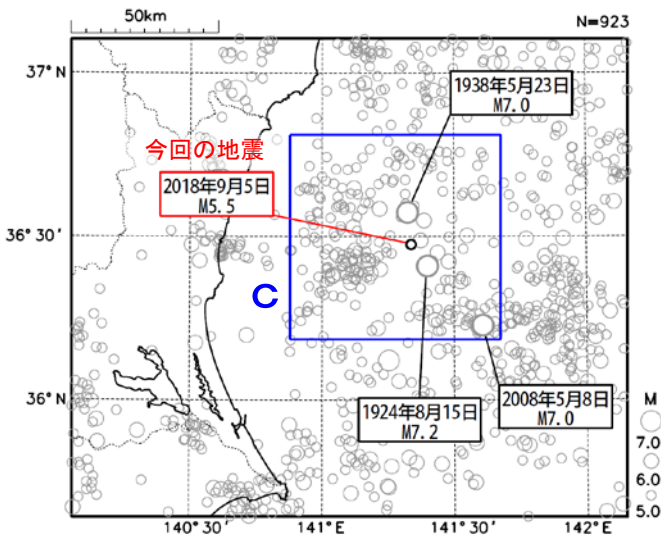


領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

(1923年1月1日～2018年9月6日、
深さ0～150km、M \geq 5.0)
2018年9月の地震を濃く表示



領域c内のM-T図

